

文化芸術体験型ワークショップ実施メニュー

1. 団体の基本情報について

(1) 分野	美術（対話型鑑賞、版画、染色）
(2) 団体・個人名	artstudio tete

2. ワークショップの実施について

(1) 対象	小学生、中学生、高校生
(2-1) 内容 1	<対話型鑑賞>「オートマティスムと感性を育む鑑賞教育」 はじめにオートマティスム（自動記述／自動書記）を体験するために目隠しドローイングを行います。 ぐちゃぐちゃに引かれた線の中に自由に色を塗り、そこから見えてくるものを想像しながら、対話型鑑賞、ソーシャル・ビュー（視覚障害のある人と目の見える人との対話型鑑賞）といった対話を通してアート作品を味わう鑑賞の体験を行います。 「答えのない問い」について、様々な視点から作品を読み解きます。
(3-1) 学校等及び児童・生徒が準備するもの	準備物：画用紙、クレヨン、水彩絵の具、新聞紙
(4-1) 特記事項	対話型鑑賞は、考えるプロセスを大切にしたい取り組みとして実施するため、正解や知識の詰め込みを目的としたものではありません。
(2-2) 内容 2	<版画>「木版画～多色刷り・裏彩色～」 児童・生徒の作品を使用し、「多色刷り」か「裏彩色」を実践します。 ・多色刷り：3色以上の水彩絵の具を使用して、刷ります。 ・裏彩色：青森出身の版画家・棟方志功も制作に用いた技法。 作品を刷った紙の裏から着色します。
(3-2) 学校等及び児童・生徒が準備するもの	多色刷り：児童・生徒の版木、水彩絵の具道具一式、澱粉のり、新聞紙 裏彩色：黒色で半紙に刷った木版画、水彩絵の具道具一式、新聞紙
(4-2) 特記事項	多色刷り、裏彩色のどちらかを選択してください。 どちらも実施したい場合は、要相談です。 木版画に取り組む前の学年で実施したい場合は、講師側で準備した見本作品を持っていきます。

(2-3) 内容3	<染色>「染色（藍染、タイダイ染め）」 藍染（藍色）やタイダイ染め（カラー6色）などの常温で染められる染料を使い、染めの体験を行います。
(3-3) 学校等及び児童・生徒が準備するもの	染めたい布（綿100%の布）、ゴム手袋、輪ゴム、新聞紙、持ち帰り用の袋、染めた布を干す場所とハンガーなど
(4-3) 特記事項	染料は講師側で準備しますが、濯ぎ用の水や洗い場をお借りする場合があります。基本的には、時間をおいてから濯ぐと染まりが良いので、講座終了後に余分な染料を洗い流すことをおすすめします。 講師準備物：染料、ビー玉、割り箸